

## 第12回だるま総会 会員コメント

### 1. 意見（5件）

伊東（005）：理事を外していただきたい。

白田（048）：一点だけ伺いますが、種々の活動報告書やレポートなどはホームページ上に掲載され、参考になっておりますが、会員が主体となって行われる活動については、参加した会員の報告や感想がホームページやメールに若干しか掲載されておられません。

今回の総会資料の活動欄には記載されておりますが、詳しい内容がわかりません。

例えば J-DAG は城西大学側の報告書はありますが、参加した会員側のレポートなどは見つかりません。プライベートな活動は別として、我々会員として皆さんの活動報告を参考にさせてもらいながら防災・減災の研鑽を積み重ねて行っています。是非予算上を行使した公式的な活動をしたならば、報告内容、意見や感想を書面（記憶は薄れる、記録は残る）で閲覧させて頂きたいと思っています。

今、役員間でメールや Zoom 等で意見交換を行っているそうですので、成果を期待しております。「防災塾だるま」の理念である“防災情報の共有化と人的ネットワークの構築”をモットーに、執行部の更なる会員への情報発信を含め、ご活躍を期待しております。

山田美（055）：感染症問題で予定通り活動ができない時もあるかとおもいますが、工夫して進めて行ければと思います。

田中晃（063）：活動計画は具体化し、力を合わせて実現していきましょう。私も参加します。

赤嶺（211）：2020年活動計画について

新型コロナウイルス感染症の影響により、防災・減災の考え方が大きく変わってきたと感じています。ステイホームや三密を守りつつ、避難する方法は難しい課題であると思います。

今クローズアップしている「自宅避難」「在宅避難」のその一つであり、こうした避難を考慮した災害に強い建築物やそうした建築物での避難の仕方など時宜に叶う検討が必須と感じています。その意味ではだるま防災教育資料の編集・管理・講師育成・災害時における感染症対策マニュアル等の資料作成の意義は大きいものと思料します。

### 2. 提案（1件）

樋口（091）：新型コロナウイルスは中々収束（終息は無理か？）せず、少なくとも今年度中は新型ウイルスが話題の中心になるだろうから、活動のテーマに据える必要がある

（①～④を考えてみた）。

①自粛期間中どのように過ごし、どんな知見を得たか？

②これから予想される複合災害（地震・水害・火災等の同時発生。感染症が流行しているかもしれない）への対応

- ③「災害によって自宅に居られなくなっても、新型コロナウイルスが怖くて避難所に行くことが出来ない」というジレンマをどう克服するか？
- ④ 正確な情報を選別して得るには？（メディアリテラシーについて）

### 3. 近状報告（5件）

小林（127）：活動報告（1号議案）の項目を追うごとに企画者役員、参加者の努力による「防災塾・だるま」活動の広さと深さを感じます。定例会の参加者が少ないことは残念です。また、活動計画（3号議案）は、どの活動も継続で重要にして欠かせないテーマです。新年度は少しでも参加を共にしたいと思います。

濱野（154）：家庭的な理由から参加できず失礼しております。個人的には専門を生かした防災教育に興味があり、中学生や高校生を対象としたカリキュラムに関われば、と思っています。昨年末に隣町の町内会から、防災や防災教育につながる地域の話に依頼されなした。大人だけではなく小学生もおり、極々一般的な話をさせてもらいました。いろいろ気ばかり多いのですが、身の丈にあった活動をさせてもらえればと思っています。

松村（167）：昨日は私が副会長を務める組織の総会と、臨時理事会が開催されました。総会是在京会員のみ出席、全国の会員は書面決議の形をとりました。（総会は成立）臨時理事会は、あらかじめ確実に出席できる理事で表決できるはずでしたが、このご時世、大学教授の理事がオンライン授業となってしまう、表決に必要な人数が1名不足となり、不成立となってしまいました。後日、書面決議となります。なかなか予定通りにいかず、いろいろ大変です。

江上健（202）：群発地震が発生していて不気味です。台風襲来の季節も到来し、新型コロナウイルス対策もあり避難所対策が急務です。私たちの地域でも学校の避難所マニュアルの改訂に着手しました。地域や行政との連携を一刻も早く模索したいところですが、集まりを自粛している自治会、町内会も多く、今、災害が起きれば大混乱になることが目に見えています。

松島（209）：地域防災拠点の避難所等のコロナ3密対応等防災塾の活動範囲が広がります。

以上

2020年5月29日  
取りまとめ：中島光明